

2-2-2 大学院修士課程教育と自然科学研究科の教育

災害研には専攻コースは設置されていないので、構成員は各自の専門を生かして、理学研究科、工学研究科、農学研究科に所属して大学院修士課程の教育に当たっている。各研究科の講義演習などに当たる他、修士論文の指導も行っている。各研究科における災害研教員の地位は、必ずしも統一されていないのが現状である。各研究科で災害研教員が各学部からの担当者と同じ条件で教育に当たれるよう、制度上の改良を進める必要がある。

当災害研の教員は、大学院自然科学研究科の環境科学専攻・地域環境大講座及び生産科学専攻・設計・生産大講座の担当教官として、講義、学生指導、博士論文審査に当たっている。詳細は新潟大学大学院自然科学研究科自己点検・自己批判報告書にゆずる。

2-2-3 研 究 生

災害研究センターの施設、設備を利用して研究を行いたい者を、研究生として受け入れている。受け入れに当たっては、文部省、新潟大学の規定に準ずるほか、運営委員会で適否を判定している。過去5年間では、新潟大学卒業者3名のほか、民間企業から2名、中国から2名の研究生を受け入れた。中国からの研究生は研究終了後、災害研で修士課程に進学する希望を持っていたが、災害研に定員がないため、新潟大学大学院農学研究科、北海道大学大学院工学研究科に、それぞれ進学した。

3 研 究 活 動

3-1 研 究 体 制

センターは4名の教授、4名の助教授、1名の技術職員から構成されており、現在は次の4分野に別れて研究を進めている。

地盤災害研究分野	教授1名、助教授1名、技術職員1名
雪氷技術研究分野	教授1名、助教授1名
地水系保全研究分野	教授1名、助教授1名
雪泥流研究分野	教授1名、助教授1名

3-2 構成員の研究業績

研究員の研究業績は、構成員の所属する学会誌等に報告するとともに、災害研発行の新潟大学積雪地域災害研究センター研究年報に発表してきた。発表論文、著書、学術講演などの発表の状況及び共同研究は巻末の付表にまとめた。

3-3 各研究分野の研究目的と主要研究課題

分 野	
地盤災害研究	<p>研究目的（地盤の研究） 主として地盤災害の性格と実態を把握し、災害発生の子測の研究をする。</p> <p>研究課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地盤災害の子測に関する研究 2) 地盤災害図（Hazard map）の作成に関する研究
雪氷技術研究	<p>研究目的（雪と氷の研究） 積雪寒冷地における各種雪氷災害の実態、及び地域的特性を把握し、原因の究明を行い、その対策技術について研究する。</p> <p>研究課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 雪氷現象の究明と対策に関する研究 2) 降積雪の工学的諸性質に関する研究
地水系保全研究	<p>研究目的（土と水の研究） 豪雪、豪雨、地下水大量利用等により生起する土地の破壊、水質汚濁等の災害防止と、地水系の保全に関する研究を行う。</p> <p>研究課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 傾斜地の地水系保全に関する研究 2) 地盤沈下地帯の地水系保全に関する研究
雪泥流研究	<p>研究目的（雪と泥・土石流の研究） 積雪地の泥流・土石流とも言われる雪泥流の実態を明らかにする研究をする。</p> <p>研究課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 雪泥流の発生・運動・停止機構に関する研究 2) 雪泥流発生の予知・子測に関する研究 3) 雪泥流防止に関する研究

3-4 災害研内・学部間共同研究の実施方針・体制・実施状況

災害発生時には、災害の性質により災害研の各分野の教員、さらに大学内外の研究者との共同研究をして、調査・研究を行ってきた。災害発生時のみならず、日常の研究においても、融雪期の地すべり発生機構の研究などの共同研究テーマをもうけ、複数の分野にまたがる共同研究を行い、実績を上げてきた。また、各個の研究者は、それぞれの専門を生かした個人研究をも行っている。

災害研は学内共同利用の研究施設として設立されたが、他の部局に無く、災害研にのみにあるといった災害研を特色づけるような設備、施設が十分でなく、災害研の施設を利用した共同研究を行う体制が、不十分なのが現状である。今後災害研の特色を生かし、かつ学内共同で利用できるような施設、設備の充実を計る必要がある。

3-5 学会などにおける活動状況

1. 構成員の学会等の参加状況・活動状況・学会組織への参加状況

大木 靖 衛

日本火山学会，日本地質学会（評議員），地熱学会，日本地球化学会，日本温泉科学会（評議員），地熱調査会，岩石鉱物鉱床学会，地学団体研究会，地下水学会，地すべり学会，土質工学会，International Association of Geochemistry and Cosmochemistry (IAGC)

高 浜 信 行

日本地質学会，日本第四紀学会，日本応用地質学会，地すべり学会（新潟支部幹事），砂防学会，日本地形学連合，地学団体研究会，日本自然災害科学会

小 林 俊 一

日本雪氷学会（理事，編集委員長，極地分科会委員長，支部理事），日本気象学会，日本自然災害科学会，日本雪工学会，水資源学会，International Glaciological Society

青 山 清 道

土木学会，日本雪工学会（理事，運営委員会委員，編集委員会委員，凍上防災委員会委員），日本雪氷学会，土質工学会（北陸支部幹事，第三紀層の斜面安定に関する研究委員会委員，リモートセンシングの土質工学への利用に関する研究委員会委員），地すべり学会（新潟支部幹事），International Society for Soil Mechanics and Foundation Engineering，Scientific Committee Member of the 4th International Symposium on the Reclamation, Treatment and Utilization of Coal Mining Wastes.

和 泉 薫

日本雪氷学会（編集委員，北信越支部幹事，雪崩分科会幹事），国際雪氷学会，日本自然災害科学会，可視化情報学会，地域安全学会

佐 藤 修

日本土壌肥料学会，日本陸水学会，日本地球化学会，日本自然災害科学会，地すべり学会（新潟支部幹事長），ペドロジスト懇談会，有機地球化学研究会

青 木 滋

土質工学会（副会長，参与），日本地質学会，日本第四紀学会，日本応用地質学会，地すべり学会（運営委員，新潟支部運営委員），砂防学会，日本自然災害科学会，地学団体研究会，日本地理学会，日本水文科学会，地下水学会，日本火山学会，環境科学会

丸 井 英 明

砂防学会（国際部委員），地すべり学会（国際部委員，編集部委員，新潟支部幹事），日本林学会，土質工学会（北陸支部幹事），日本雪工学会（雪崩防災委員会委員長），日本雪氷学会，日本自然災害学会，インタープリメント（環太平洋支部委員），ユフロ＜国際林業研究機関連合＞自然災害分科会（地滑り部門副議長），オーストリア砂防及び雪崩防止学会（客員会員）

3-6 研究費の確保

3-6-1 研究費の配分状況・執行状況

校費として配当された経費から大学全体、災害研全体の運営にかかる経費を差し引いた後、4分野に均等に分けて、各分野の研究などに当てている。近年、諸経費の上昇により、研究に回す金額が減少している。各分野が研究に使用できる金額は約200万円である。研究機器の導入、プロジェクト研究の費用は、一般設備費、特定研究経費、教育研究学内特別経費等でまかなってきた。奨学寄付金、受託研究費なども受け入れ、個別の研究を進めてきた。これらの状況は財政の現状でのべる。

3-6-2 文部省科学研究補助金の状況

昭和62年度

研究代表者	交付決定額	研究課題
総合研究(A) 藤田 至則	2,300千円	後期中世生～現世における陥没の形態のその発生機構に関する総合研究
重点領域(2) 吉田 昭治	4,000千円	豪雨による地すべり発生の予測に関する研究
海外学術研究 青木 滋	7,000千円	長江・黄河流域の大規模地すべりの比較研究
一般研究(B) 吉田 昭治	400千円	地下水条件からみた農地の地すべり特性とその防災対策に関する研究
一般研究(C) 高浜 信行	800千円	第四紀後期の山地形成と土石流の発生に関する研究
奨励研究(A) 和泉 薫	900千円	粒子構造解析による水を含んだ積雪の減少の研究

昭和63年度

研究代表者	交付決定額	研究課題
海外学術研究 青木 滋	1,600千円	長江・黄河流域の大規模地すべりの比較研究
一般研究(B) 大草 重康	3,800千円	海洋波浪と海底マスマーブメントの研究
一般研究(C) 高浜 信行	300千円	第四紀後期の山地形成と土石流の発生に関する研究

平成3年度

研究代表者	交付決定額	研究課題
一般研究(B) 高浜 信行	5,000千円	有史前に発生した大規模地すべりと現在の地すべりとの関連の研究
一般研究(C) 大木 靖衛	1,000千円	箱根火山の巨大地すべりと南関東の大地震との関係についての研究

平成4年度

研究代表者	交付決定額	研究課題
国際学術研究 小林 俊一	6,000千円	大陸性吹雪に起因する雪害の共同研究
一般研究(B) 継続 高浜信行	700千円	有史前に発生した大規模地すべりと現在の地すべりとの関連の研究
一般研究(C) 継続 大木靖衛	500千円	箱根火山の巨大地すべりと南関東の大地震との関係についての研究

3-6-3 科学研究費補助金申請件数及び採択件数

種目別	昭和62年度 申請件数/採択件数	昭和63年度 申請件数/採択件数
海外学術研究	1件 / 1件	2件 / 1件
重点領域研究(1)	なし / なし	1件 / なし
重点領域研究(2)	3件 / 1件	2件 / なし
一般研究(B)	2件 / 1件	1件 / 1件
一般研究(C)	4件 / 1件	3件 / 1件
総合研究A	1件 / 1件	なし / なし
奨励研究(A)	1件 / 1件	なし / なし

種目別	平成元年度 申請件数/採択件数	平成2年度 申請件数/採択件数
重点領域研究(1)	1件 / なし	1件 / なし
重点領域研究(2)	1件 / なし	1件 / なし
一般研究(B)	4件 / なし	1件 / なし
一般研究(C)	なし / なし	3件 / なし
海外学術研究	1件 / なし	なし / なし
総合研究(A)	1件 / なし	なし / なし

種目別	平成3年度 申請件数/採択件数	平成4年度 申請件数/採択件数
国際学術研究	なし / なし	1件 / 1件
重点領域研究(1)	2件 / なし	なし / なし
重点領域研究(2)	2件 / なし	2件 / なし
一般研究(B)	3件 / 1件	1件 / 1件
一般研究(C)	3件 / 1件	1件 / 1件
一般研究(B)	なし / なし	2件 / なし
一般研究(C)	なし / なし	2件 / なし

(各年度とも継続を含む。なお、科研費の分担は省略した。)